

中齋塾 東京フォーラム  
平成 28 年度 第七回講話

平成 28 年 7 月 9 日  
於 湯島聖堂

体力に影響するわけがないと思って、どしゃ降りのなか草むしりをしていました。翌日は蒸していて、生まれて初めて熱中症というのは、こういうものかという体験をしました。

・ちなみに熱中症らしきもの、または熱中症になった方おられますか？

いない。皆さん元気。結構なことです。水分をほどよく取れば良いみたいですが、私はほどよく水分を取っていたはずですが、これが熱中症かなという体験をしましたので、得難い体験でした。水はだいたい 1.5 リットル位は飲みますが、足りないですかね。

最初に感謝を申し上げます。岡山県高梁市で方谷祭がありました。その記念講演会に中齋塾フォーラムのメンバーの方々が、東京から群馬から雨の中お出でいただいて有難うございます。私をよんでいただいた石井保先生が「何か映画の一場面のような…」と挨拶されて、思いました。以前、山田方谷先生・三島中洲先生のお墓参りをさせていただきました。その時、一緒に行っていた片山さんが連絡を取って下さって、バスが田井章夫先生の御自宅の前に近づいた時、雨がちょうどいい具合に降っていて田井先生と奥様が二人傘を差しながら家の前で立っていた。恐縮しましたが、好一對の御夫婦が仲良さそうに立っていて良いなと思いました。こういうところから、ワンシーンが生まれるのだなという印象を強く受けました。

山田方谷先生に関することを研究する人は、亡くなられましたが田井章夫先生に色々伺うということにぶつかります。私も何度もお邪魔をして、だいぶ教えていただきました。

昨日は明德出版に寄りました。『陽明学のすすめ』を再販するから、見直してくださいということで、いくつか直したのですが、シリーズ最初の巻なのに表紙に「1」と入っていないから、入れるということを打ち合わせました。担当の方が「この本を出して 10 年ぐらい経ったんですね。今はシリーズ 6 で止まっていますが…でもけっこう進んでいますよ」と。

最近、色々な本を読んでいます。特に佐伯先生の書く本を見ると、何とかシリーズ 1 から続いているのですが、中身にちょっと手を加え筋書を少し変えて完成品と銘打って、ま

た売る。読むと、ちょっと筋が変わっているだけで話はだいたい同じです。でも、この方は癌でそう長くはないと自分で書いておられたから仕方がないかなと思います。

『陽明学のすすめ』の中身を見ると不思議なことに、10年前に書いたものと今と比べても、時流に関する話はそんなに色褪せていませんでした。ただ反省点がひとつ。当時書いた物で、日本の経済はとにかく目茶苦茶になって、あと3年後ぐらいには誰でも分かって書いておきましたが、驚天動地のごとくいっぺんにひっくり返るぐらい変わったら分かるかと思いますが、何となく崩しに変わっていますので、言われればあれかという感じ

です。  
比べると、日本の借金は10年前600兆円と書いてあったかな、でも中身はもう1千兆円超しているというふうには書いてあるけれども、じわじわ上がってきた場合、人間はそんなにいっぺんに変わったと思わない。そこら辺の書き方も、少しそういうことも加味しなければいけないと感じました。

## 恒例の質問

・良い日ばかりだったというのも問題があるから、良い日が比較的続いていたなど、今年1月から6月までの半年間を振り返ってお考えください。

手の挙げかたというのは特徴があって、ゆっくり挙げる方とすぐに挙げる方。どうでしょう。どっちが気分いいでしょうか。同じ動作をしても違いますから、時々お考えいただくと良いと思います。

・嘘は比較的つかなかった。

ゆっくり考えながら手を挙げる方がいます。それはそれで悪くはありません。以前は「嘘は一回もつかない」と、前面に強く押し出していたら、あちこちからクレームがきます。でも批判で良かったのは矢野弾先生です。

あなたは中斎塾フォーラムの限られた空間の中で嘘はつかないとやるのは、それはいいかもしれないけれども、私はこう思う、ああ思うと色々言っていて、もうちょっと違う世界で広くやった時には、そう言い切るということは、いかがなものかと。

そういうことを聞きながら、「嘘にも良い嘘もある」と取り入れたので「比較的嘘を」という言い方にしました。そういう言葉を出すにも時間が経つにしたがって、だんだん重みも増すし経験も増しますから、言われた瞬間にたぶん御返事するものが、少しずつ変わってくると思います。嘘も良い嘘・悪い嘘というのがあるようですので、相手のために思いつく嘘は良いことだと思っております。ただ、嘘をつかないで黙っているというのも後

の反応がすごい。

春日潜庵が幕府に捕まり断罪されるのを待つ身だったのを、山田方谷が八方手を尽くして助け出した。本人は、なぜ釈放されたのかは分からなかった。しばらくして山田方谷先生が動いてくれたことによって命が助かったと分かってから、あちこちに感謝の言葉を言っていた。

良いことをしたら人様に言いたくなるけれど、あまり言わないほうが良いみたいです。ちょっと悪さをしてでも言いたくなるけれど、悪さしたよと言わないほうが良いみたいです。あまり多くは喋らないほうが良いでしょう。

- ・有難うと言い、有難うと言われることが比較的多かった。

有難うと言われることが比較的少ないと思った方は、反省したほうが良いと思っております。

最近、自分の実験ですと、買い物などをしてお金を払って有難うと返ってくる有難うは心のこもっていない場合が多い。お金を使う場合は、それに何か気持ちが相手に伝わったようなお金の払い方をすると、とても誠実な感じで返ってくる。

有難うと言われることが一番多いことは、自分の体を動かして相手のために何かをして差し上げると、たいがい有難うと言ってくれる。有難うと言われていないと思ったら、やっぱり言われるように努力をしたほうが気持ちが良いです。

- ・半年間、健康法を続けた。その結果、体力が少しアップしたと思っている方どうでしょうか。

これは凄い。パパッと挙がりました。

昨夜、上野の定宿でサウナに入っていました。後から入ってきた人が私を見て「失礼ですが、おいくつですか」と聞きます。何となくお喋りをはじめたら、どこかの会社の会長なんだろうね。それで色々お喋りをしていったら「私よりお若いと思いますけれども、悠々自適でしょうね」と言うから、最初の質問に答えなければいけなくなってきて「来年70歳になります」と言ったら「えっ、私より年上ですか」と、びっくりしながら話をしていました。健康法をしていますと若くなるんでしょうね。

この間「粗にして野だが卑ではない」という国鉄総裁の話をちょっとしたと思います。石田禮助さんは普通のストレッチをやりますが、素振りを200~300回やる。これは若い時に剣道をやっていたお陰だといいます。福沢諭吉も医者に止められていたが隠れて素振りをしていました。

- ・昨晚寝る時、明日以降を過去形でイメージして寝た方。

- ・半年間、自分磨きをよくやってきたと思う方。

自分磨きは事上磨錬でございます。

それから最後に半年経ったから聞いておこう。この半年間、新しい方と会うのが比較的多かった。名刺交換した方は名刺交換がいつもより多いとか、半年間いかがでしょう。

凄いな、有難うございます。

## 基本哲学

< 足るを知る >

今回、都知事選に立候補した人達はどれくらい「足るを知る」を持っているのかなと気になります。今、マスコミが報道しないだけで11人立候補しているわけでしょう。小池百合子さんという人は実に上手ですね。戦略家という感じがします。

メディアの流し方が画一的で、足るを知るという考え方で出てくれば、もうちょっと違った反応をしたいと思いますけれども、もうメディアはどうにもままならんなどと思っています。足るを知るをベースにおきながら今日の論語を申し上げます。

## 論語の視点

今日の関口さんの素読は、何度も練習したのではないのでしょうか。落ち着いていて爽やかな感じで読んでいました。特に印象的だったのは「其の仁に如かんや」この読み方がとても良かった。「其の仁に如かんや」その次に「其の仁に如かんやと」こっちの「と」が付いている方は、ちょっと間を置いて伝わってくるような声で読んでおられたので、だいぶ読みこなしたなという気がいたしました。

## < 憲問 第十四 >

【一五】子曰く、臧武仲、防を以て後を為すことを魯に求む。君を要せずと曰うと雖も、吾は信ぜざるなり。

形は違いますけれど、小池百合子さんを思い出しました。これは孔子が言うには、防の城に立てこもって、自分のやりたいこと、やってほしいことを相手に強要する。この場合は自分の後継者を決める。だから認めてもらいたい。認めなければ、防の城に立てこもって戦うということを魯の国に求めた。「君を要せずと曰うと雖も」魯の君に強要していないと、こういう言い訳をしたって私は信じない。

この文章を読んで思ったことは、臧武仲は臧為という人間を後継者として国に認めてもらいたい。これは邪なのでしょう。当時、外国に亡命したら、自分の持っていた領地は国に召し上げられるわけです。そういう点でいくと、今の日本はかなり軽い状況だけれども、これで小池百合子さんを思い出したことは、自分が都知事選に出る。については推薦をして欲しい。しかし自分が推薦されそうにないなと思ったら手練手管を使ってというのかな、手練手管というより小池さんの場合は、ここは強制的に「私を認めなかったら、どういうことになるか。冒頭解散をする」と、「皆さんクビ」と脅しているわけだから、カチンとくる人、解散されたらかなわないという人、両方出てくると思います。

自分のやって欲しいと思うことを無理やり相手に強要しているというところで、似たようなことをやっているなど感じます。そうすると最後に「吾は信ぜざるなり」に繋がってくる。ここは「北風と太陽」の話と同じですね。自分が何か仕事をする時も同じことが言えます。こういう事をしたい、ああいう事をしたいという時に高圧的に無理やり強制的に北風を吹かせるのではなく、太陽を当てれば良いと読みましょうか。ということで、この臧武仲のところは、こういう読み方もできますと覚えてください。

#### 【一六】子曰く、晋の文公は譎りて正しからず。齊の桓公は正しくして譎らず。

これは宮城谷昌光さんが『重耳』という小説を書いています。面白く読みました。『重耳』は、晋の文公の亡命生活が 38 年間と長かった。もう自分は亡命したまま終えるのだろうと諦めていたが、最後の土壇場で覇者になれた。これは大したものだと思いますが、孔子が晋の文公と齊の桓公を批評したわけです。

「譎りて正しからず」正しいことを正しいとして行っている人、筋の通っている人、という考え方でいくと孔子は筋の通っている人、正しいことを言う人が良いと思っていますけれども、晋の文公はその時その時で言葉が違ふ。相手によっても手の打ちかたが変わる。

「譎りて」は、嘘偽りと捉えるのではなく、今風によく言えば適切な対処をする。相手の様子や状況をみながら判断して良いと思うことを適切に対応する。したがって実績は挙げた。齊の桓公は正しいけれども、頭が固いから相手に合わせて手は打たない。そうすると下手な手ばかり打つことになって、へまばかりが多いとみえる。これは多いですね。お年寄りを頑固者と言うけれども、これは頭が固くなっているから、一つ一つの言葉から連想させて柔らかく受け入れるということが難しくなってしまう。頑固者で固い。正しいけれども、どうも柔軟性に欠けるといふ齊の桓公。その反対が晋の文公と捉えれば、周りにいますでしょう。自分はどっちかなと考えればよいと思います。たぶん両方たして 2 で割ればいいという話だと思います。

【一七】子路曰く、桓公 公子糾を殺す。召忽 之に死す。管仲は死せず。曰く、未だ仁ならざるかと。子曰く、桓公 諸侯を糾合するに、兵車を以てせざるは、管仲の力なり。其の仁に如かんや。其の仁に如かんやと。

齊の桓公は自分の兄を殺して王につきました。その時の付け人で召忽と管仲がいた。召忽は後を追って死んだ。管仲は乗り換えて齊の桓公に仕えた。こういう事をするのは、いかなものかと子路が孔子に聞きました。その時に「曰く、未だ仁ならざるかと」これは仁ではないですねと聞いた。孔子はこの時どういう気分だったのかなと考えます。「其の仁に如かんや」前にも言いましたが、孔子は管仲に対しては褒めたり貶したりが多いです。それで、この管仲の力は大したものだと。この仁に及ぶべくものがあるわけがない。これは素晴らしいと誉めそやした。管仲を素晴らしいと言ったことについては、武力をもって相手を圧倒したのではなく、**兵車**は武力ですから武力を使わずに言葉で諸侯を糾合した。**糾合**は9回集めたと捉える。ただし左氏伝によれば、その他に5回武力をもって集めているとありますから、脅したりすかしたりしながら諸侯を集めた。けして言葉だけで集めているわけではない。言うことを聞かなかつたら酷いぞということも併せ用いている。

## 紹介書籍

『西郷南洲 手抄言志録を読む』渡邊五郎三郎著 致知出版

最近、本を読んだり色々動いたりしている中で、ずっと判断基準、判断基準と言いつつていきましたが、判断基準がなくても良い場合があります。何か氣にいった一言、二言が耳に残っていれば役に立つと思います。今日お話ししている本は、渡邊五郎三郎先生が求められたものです。渡邊五郎三郎先生は90代後半です。

何かちょっとした言葉、一つ二つ残っているだけで自分の行動が、知らず知らずの間に律してくれていると感じます。今日お話ししている本『西郷南洲 手抄言志録を読む』でも、いっぱいあります。

西郷南洲をちょっとした言葉でいえば、自分で自分を作っていた人ですかね。こういう人物でありたいと願って、そのための努力を必死になって実行し続けた人。例えば西郷隆盛と大久保利通を並べてみますと、二人は親戚関係です。西郷家も貧乏でしたが、大久保家はもっと厳しくて西郷家でご飯を食べる。どうもそういう小さい時の過ごし方をしたようだし、西郷隆盛が西南戦争で亡くなった時、大久保利通が涙を流さなかったと伝わっているようですけれども、大久保利通にすれば内乱を起こした時に涙を流したということです。涙の流し方がちょっと違って、あの二人の関係は実に面白いと思います。西郷隆盛を一言で表わすと、「大自然の人」そんな感じがします。

それから「言志録を読む」ですから、佐藤一斎が浮かんでくる。人物をよく見ていくのが良いと思う。

お返ししている本の中でみても、トイレの中で浮かぶ言葉は良いですね。私の場合、トイレの中ではと思った言葉や電車に乗っている時、のんびりしている時にひょいと浮かんでくる言葉。それから寝る時、寝る寸前かな、何か浮かんでくる言葉。ということで移動中ほっと一息している時、狭い空間にいる時、寝る寸前、この時に意識して何か良い科白はないかと思って浮かんだら、メモをとって枕元に置いておく。こういうことはお薦めです。

最近私が変わってきているのは、自転車に乗り、ペダルを漕いでいる時に少しずつ浮かんできます。テーマを最初に考えて乗り始めると大変良い。ちなみに今日は自転車に乗ろうと決めて134日目ですが、今日は乗っていませんから、昨日迄で133回とカウントしています。毎日少しずつやっていると、パワーがたまってくるようで、心の貯金箱と同じです。…領いてくれて有難うございます。心の貯金箱は前にお話ししましたよね。何となく覚えておられますかね。

## 心の貯金箱

大野参与は、ご存じないですかね。大野さんが一番重要ですけど…心の貯金箱ちょっと申し上げます。これは学問的なものに繋げましょうか。良知と結びつけながら解説します。

大学1年の時に当時3年生だった大野さん。中国語文研究会というクラブがありまして、その部長が大野さん。

私の今の記憶では、大野さんが台湾・香港旅行をして帰って来られた時の話を聞かされたと思いこんでいたら、これから行くという話をされたとお聞きして、ちょっと記憶に誤りがあったなと思いつつ、とにかく刺激を受けた。大雑把にいうと40年前に海外旅行をしようとする規制があって、そう簡単には出られない時代でした。その時に大学の先輩が外国旅行をする。凄いな、お金を持っているんだなと思ったら、後でよく分かりましたが、貧乏旅行だった。当時、大学の浦野理事長に海外旅行をするけどお金が無いので貸してくださいと言ったら、担保は何だと言われて、奨学金を担保にしたという動きを先輩がした。50人ぐらいが話を聞いて、行きたいと思った人がやっぱり10人ぐらいはいました。そのうち5~6人が1ヵ月後に貯金をしました。でも結果として、あの時話を聞いた人達で、外国へ出たのが3人でした。私と台湾まで一緒に行ったのが2人いました。行きたいと思ってお金をなんとか調達して出掛けたのは3人でした。やはり相当に影響があった。

それでその時に私が取った行動は、話を聞いた瞬間に大学の近くにある銀行に行きました。その当時は協和銀行といいましたが、そこへ行って「貯金をしたいけれども、いくらからできますか」と聞き、「1円からできます」と言われ、1円ならできると思って、その

場で1円を貯金して通帳を作りました。1円と印字されている通帳を貰って、大野さんが2~3ヶ国だったら俺はもっと回ってやろうと思いました。結果として東南アジアをぐるっと回ってきました。その時の行動が他の方と違っていたのは毎日貯金したこと。思った日に貯金したこと。この2つが違っていたと思います。

後に「心の貯金箱」と名付けましたが、思った日に1円貯金し、翌日は2円貯金して、その次の日は3円貯金しました。毎日1円ずつ増やしていった。そうすると毎日1円ずつ印字されていくと、目に見える通帳ができてくる。印字されてきて証拠が残ってきている。心の貯金箱というのは、心の中に貯金箱があって印字1円と見ると、ちゃりんちゃりんに入ったような気がする。不思議なことに1ヶ月間ぐらい毎日印字をしていくと最初は遠い彼方の目標でしたが、通帳のページが次々に変わってくると心の中の貯金箱が増えてくる実感がありました。そうすると最初は行けるかもしれないな、行きたいなと思っていたものが、人様にも言いますから、ある程度貯まったところで行かないと格好悪いよな、もうちょっと頑張ろうとなります。そうすると応援団が現れて奉加帳を作り「深澤君が東南アジアを旅行しようと計画中です。奉加帳を持ってきましたので金額を書いて名前書いてお金を出してください」と、先生達もなんぼか出して載っている。当時の貿易商社かな、そこでアルバイトをしていましたら、そこの社長がちょっと応援してあげようと言ってくれました。何の応援かなと思ったら香港までの旅費を出そうじゃないか。まだ名前を憶えている祭(さい)さんという人。でもただ単に旅費は出してくれない。台湾や香港に行つて、この荷物を運んでくれたら見返りに旅費を出すという話が出てきたり、親兄弟からお金も出してもらい結果として出掛けるだけのお金は貯まりました。ということで、行きたいな、行けるかもしれないとしていたら、応援団がだいぶ現れて行かないわけにはいなくなってきた。自助努力もしますが周りに言っていると応援する人がいっぱい出てくる。それを私は心の貯金箱と名付けました。

よく後で考えてみたら、ポイントひとつ目は思った時その日に行動すること。ふたつ目は達成するまで毎日続けること。大きいか小さいかは別として、たいがい自分が願ったことは達成できるなという感じがします。思ったことを、毎日少しずつ少しずつその日のうちに実行をする。

そういうことがあるものですから、自転車に乗ることも毎日少しずつです。今日1日、自転車に触らなかつたら、翌日に2日分やる。せいぜい2日、3日分まとめるぐらいしか出来ない。これは少しずつやるということが、すごく大きいようです。現実に太腿の筋肉が、かなり盛りあがりました。これは目に見える形で、自転車に乗れば筋肉がつくし、心の貯金箱でお金を貯めて外国旅行をしようということも現実にできました。

## 時事評論

最近、日本の企業家は1年間で億単位の役員報酬を取る人が、ここ数年で増えています。

ちょっと時代が変わったなと感じます。それからパナマ文書に載っていたので週刊誌によく出る話です。私は警備業をやっていますが、同業でセコムができました。

昔ですけれども、セコムの株の動かし方が何かおかしい動かし方だと警察が目を付けた。ちょっと調べてみたけれども、よく分からなかったが今回のパナマ文書のおかげで中身が分かったと言っていました。別に分かったところで、どうということはない。その当時の法律として悪いことをしたわけではないけれども、でもまあ手口がよく分かった。

日本で稼いで利益がたくさん出た。スイスのある会社のアドバイスで、このままだと相続税がたくさん取られるから、節税対策で創業者が租税回避地に別会社を作って、そちらにお金を動かし、別法人が株を持つことにして、その別法人が日本へ相続する人達に贈与をしたということです。親から子供へ贈与すると相続税が掛かるけれど、外国にある別法人が何らかの縁で日本の人達に贈与をすると相続税は掛からない。単なる贈与ということで、節約ができた。世の中はそういうことを調べてくれる人がいます。

中身を見ていて、こんなことをして税金回避をしたのかということが分かる。そうすると『粗にして野だが卑ではない』というものと正反対だなという感じがします。卑は私利私欲。これは私利私欲で行動しているかどうか。よく考えていけば、自分の行動を見直すのに役に立つということです。

## テーマ

### <寸言の効用>

何か四字熟語、ちょっとした言葉、こういう言葉は役に立つみたいなのは、ありませんか？

比田井さん、頭の中でパッと出てきませんか？例えば比田井さんなら「天網恢々疎にして漏らさず」とか…

比田井副理事長—難しいですね。

人を見ると何となくね。論語でいけば「功言冷色 鮮きかな仁」とかですね。ちょっと長いですかね、何かそういう言葉は浮かびませんか。

座右の銘にする人もいるし、文章の中からも良いし、ちょっとした言葉です。例えば今回っている本の中ですと「憤」という文字がありますが、憤りという文字。

これは公憤と私憤がある。もの凄くエネルギーが沸き起こって行動に移ろうという時に公の憤であれば、これは世の中に受け入れられる。ただし私憤だとよくない。だから自分に「憤」あるやなしや。これは渋沢栄一がよく使っていた科白です。何か自分の人生の中で良いなと思う言葉、お持ちであればよい。お持ちでなければ、何か一つや二つ持ちましょう。

比田井副理事長—私が氣をつけているのは、漲（みなぎ）るとか、滾（たぎ）るとかです。こういうことは、いつも持っています。自分の中から消えていったら、もう一生終わりだなと思いがらいます。だから常に滾る。そういう言葉は私の勉強会の柱です。

滾りは良いですね。漲るは体中に漲ってくるけど、滾るだとドンドン憤出しています。それは良い科白だと思います。

谷口副代表幹事—本の中で西郷南洲の南洲という号は、いつ頃から、どこからきたのでしょうか。本人も使っていたが、いまいち分からない。

サインしますから、本人も使っています。

谷口副代表幹事—では、どっからきたのか、いつ頃から使いだしたのかを教えてください。

それは私もよく分かりませんが、自分で書いた時に南洲書と南洲だけのサインのしかたが違っていています。自分で考えた文章を書く時と、人の文章をお役にたたしてねと書く時は変えている。西郷南洲がいつ頃からか、それは知らないから調べてみましょうかね。谷口さんも調べて、分かったら教えて。私も調べて分かったら教えます。この話は、けっこう面白い。

方谷祭で紹介された時に陽明学研究者と書いてあった。そういう名乗りは一度もしてないけれど、皆さんが付けてくれた。陽明学を付けてくれるのでしたら、私は陽明学学徒が良いなと思っています。安岡先生は、この学徒を使いましたね。それから齢いってから老学と書く人もいるし、一生学ぶ者という意味で、学生（がくしょう）という場合もある。

一生の中で「寸言の効用」というのは、自分の人生行路を決めなければならない時、頭の中が真っ白けになった時とか、何かひとつ、自分の心に響く良い言葉をお持ちになると良い。何でもいいです。負けるなでも良いですよ。そうすると「負けるな一茶ここにあり」が出てくるし。何かひとつ持っていれば、困ったなという時に明かりが灯ります。

後 1 分と言われましたので、今日の新聞はいくつか出しましたが、欧州危機再発の懸念なんて新聞に出ていますけど、何のことはない。今、国際的に相当揺れ動いている。ヨーロッパ関係、それから日本。そういうのを眺めてみて、大きく世界的な規模で揺れ動いて

いる。それは体で、皮膚で感じられます。ただそこら辺の揺れ動く、その奥にあるものは何だ。本質は何だとみるように、お互い努力していきましょう。本質・大局・歴史の物の見方です。

私は寸言でいけば、本質・大局・歴史または判断の三原則ということで、自分自身に使っております。

どうぞ何かお探してください。はい以上でございます。有難うございました。